

福島第一原子力発電所 3号機 クレーンからの 作動流体の漏えいについて

< 参 考 資 料 >
2 0 2 0 年 7 月 3 0 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 昨日（7月29日）午後4時7分、39回目の燃料取り出し作業として、3号機原子炉建屋において、使用済燃料7体を装填した輸送容器（キャスク）をクレーンによりオペレーティングフロア（以下、オペフロ）から1階へ吊り下ろす作業をしている際、クレーン先端のツール類等を動かすための作動流体（水グリコール）漏えいを示す警報が発報し、監視カメラにて作動流体の滴下を確認しました。警報をリセット後、輸送容器を1階へ吊り下ろし、手動で吊具を外した後、キャスク転倒防止処置を行いました。
- 現場確認の結果、クレーン主巻付近の作動流体ホース継手のねじ込み部に漏えいがあることを確認しました。使用済燃料プールへの滴下はしておらず、3号機オペフロダストモニタ等に有意な変動はありません。
- 仮に作動流体が喪失した場合でも、吊り荷の状態は維持され、落下等につながることはありません。
- 漏えい原因は摺動部のねじ込み箇所のため、シールテープの性能低下によるものと推定しており、本日（7月30日）シールテープの巻き直しにより復旧を行う予定です。

